

第 2 章 地域の概要

1. 自然的状況	2- 1
1-1 地理的・地形的特性	2- 1
1-2 気候的特性	2- 3
2. 社会的状況	2- 4
2-1 人口動態・分布	2- 4
2-2 市街地・集落等の動向	2- 5
2-3 産業の動向	2- 6
2-4 土地利用状況	2- 7
2-5 総合計画の概要	2- 8
2-6 環境基本計画の概要	2-10
3. 生活環境の状況	2-12
3-1 大気質の状況	2-12
3-2 水質の状況	2-13

第2章 地域の概要

1. 自然的状況

1-1 地理的・地形的特性

本市は静岡県西部地域の天竜川左岸に位置し、浜松市、袋井市、森町と接している（図2-1-1参照）。面積は164.08 km²、東西が約11.5km、南北が約27.1kmで南北に長い。

南は遠州灘に面した平野部、中央から北部にかけては磐田原台地が広がり、北部は南アルプスの南端にあたる山間地帯からなる。東海道の宿場町として栄えてきた本市は東西交通の要所として発展し、現在は国道1号、国道150号、東名高速道路等の主要道路並びにJR東海道本線が東西交通のかなめとなっている（図2-1-2参照）。



図2-1-1 静岡県内における本市の位置

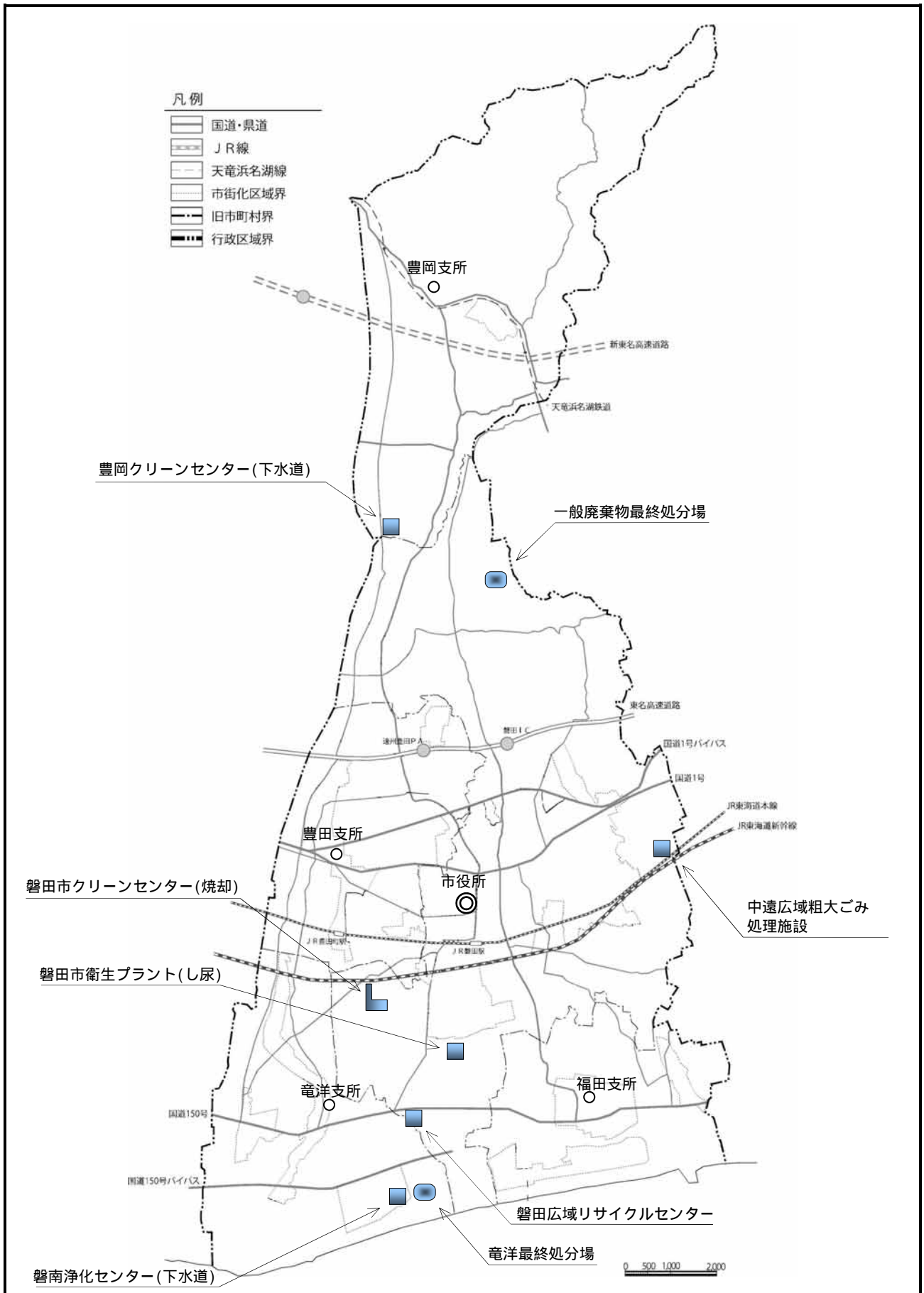


図 2-1-2 本市の全域図

1-2 気候的特性

年最高気温、平均気温、最低気温の推移を図 2-1-3 に、年間降水量の推移を図 2-1-4 に示す。本市は黒潮の影響を受ける温暖な地域にあり、年平均気温は 16 から 17 、最高気温は 35 を超える日もあるが、最低気温は 0 を下回ることが少なく、過ごしやすい地域である。年間降水量は 1,200 mm から 2,400 mm 程度であり、多雨、少雨が周期的に変化している。

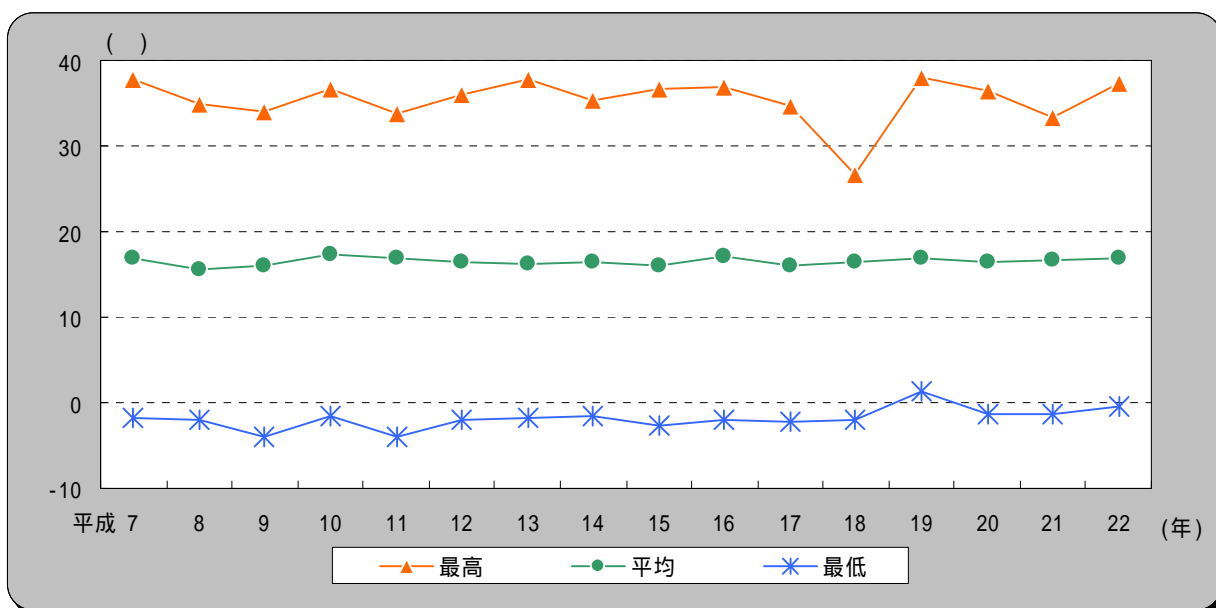


図 2-1-3 年最高気温、平均気温、最低気温の推移

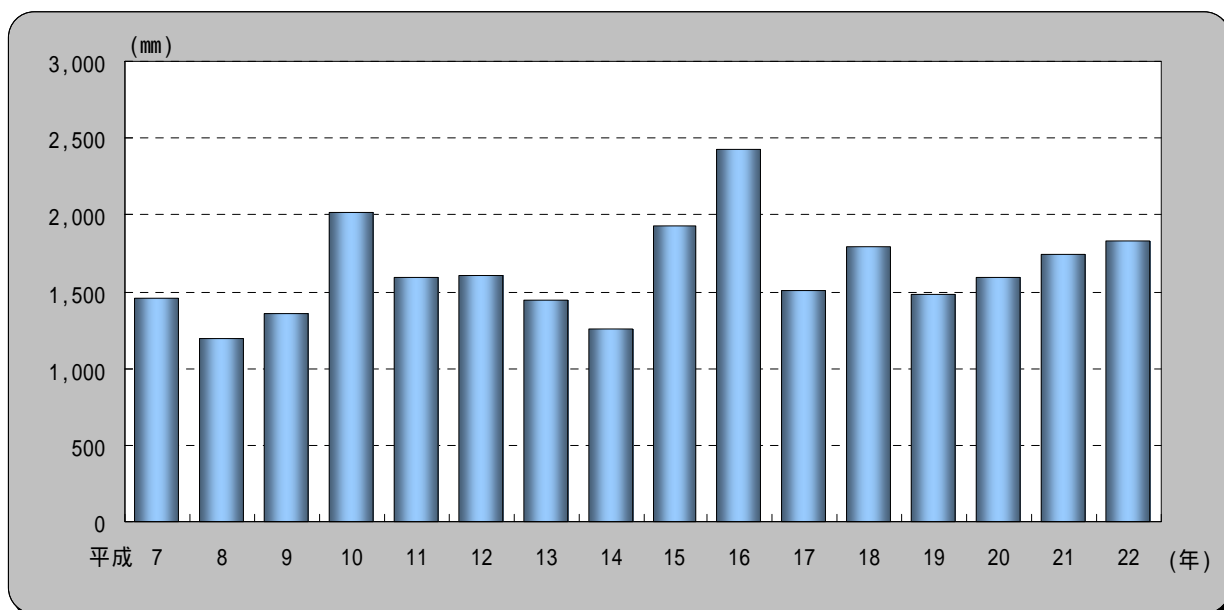


図 2-1-4 年間降水量の推移

2. 社会的状況

2-1 人口動態・分布

住民基本台帳人口及び外国人登録人口の推移を図2-2-1に示す。両者とも平成19年度までは増加傾向にあったが、それ以降、減少に転じている。

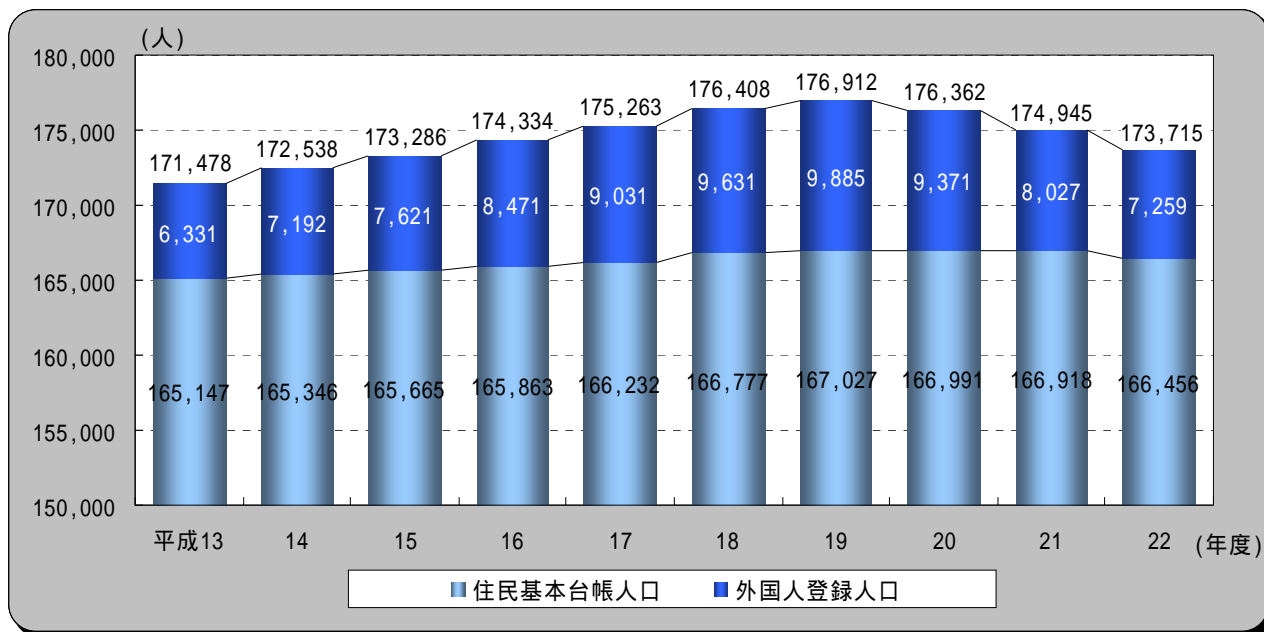
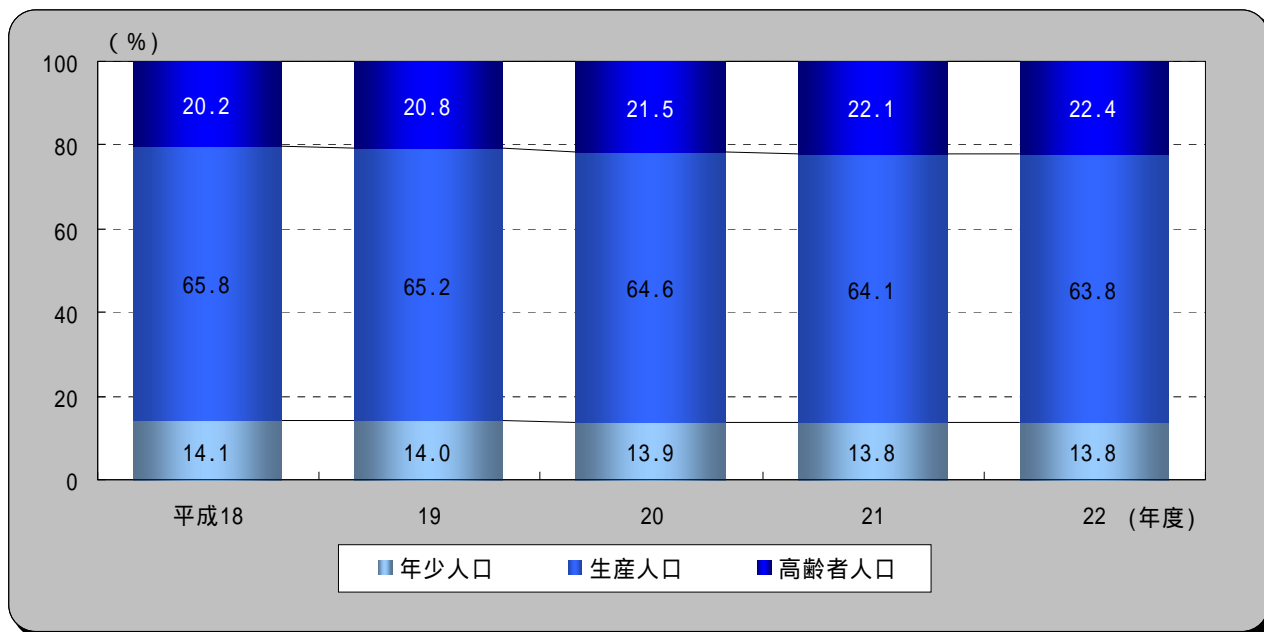


図2-2-1 住民基本台帳人口及び外国人登録人口の推移

年齢3区分別人口構成比の推移を図2-2-2に示す。14歳以下の年少人口及び15歳から64歳までの生産人口の構成比は徐々に減少している。一方、65歳以上の高齢者人口の構成比が増加し、少子高齢化が進んでいることがうかがえる。



注) 各年度末現在の住民基本台帳人口

図2-2-2 年齢3区分別人口構成比の推移

人口動態の推移を図2-2-3に示す。社会動態は、平成19年度まで転入が転出を上回っていたが、それ以降は逆転し、社会減の状態になっている。

自然動態の方は、出生が死亡を上回り自然増の状態にある。

全体としては、社会減の幅が自然増の幅を上回り人口減少の状態となっている。

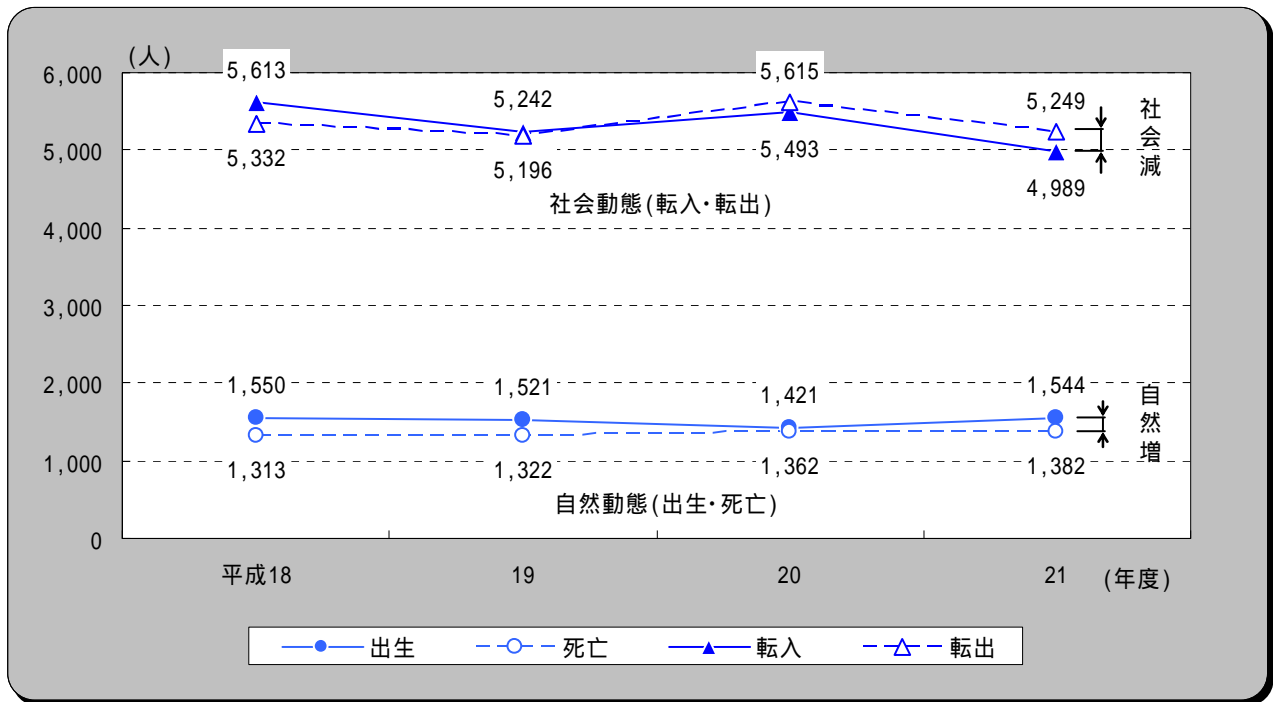


図2-2-3 人口動態の推移

2-2 市街地・集落等の動向

平成23年3月31日現在の地区別人口の割合を図2-2-4に示す。住民基本台帳人口では、磐田地区の人口割合が52.6%で最も多く、次いで豊田地区、福田地区と続く。

外国人登録人口では、磐田地区が62.6%で住民基本台帳の人口割合よりも10ポイント多い。次いで竜洋地区が18.8%で続く。

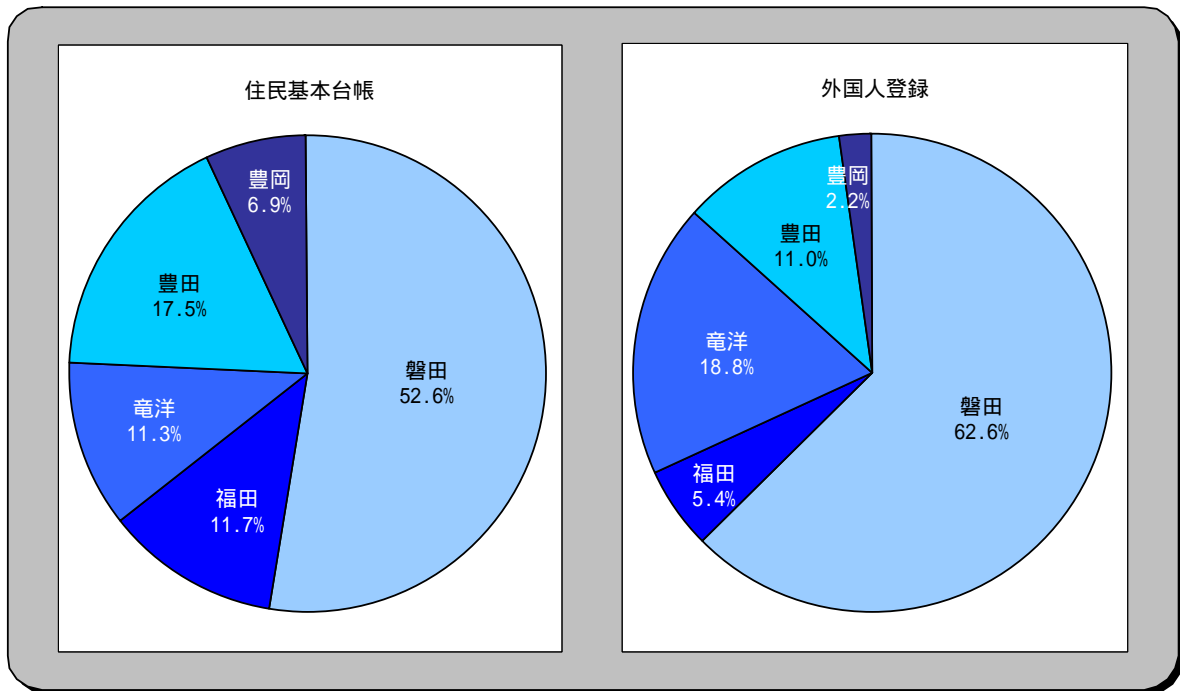


図 2-2-4 平成 23 年 3 月 31 日現在の地区別人口の割合

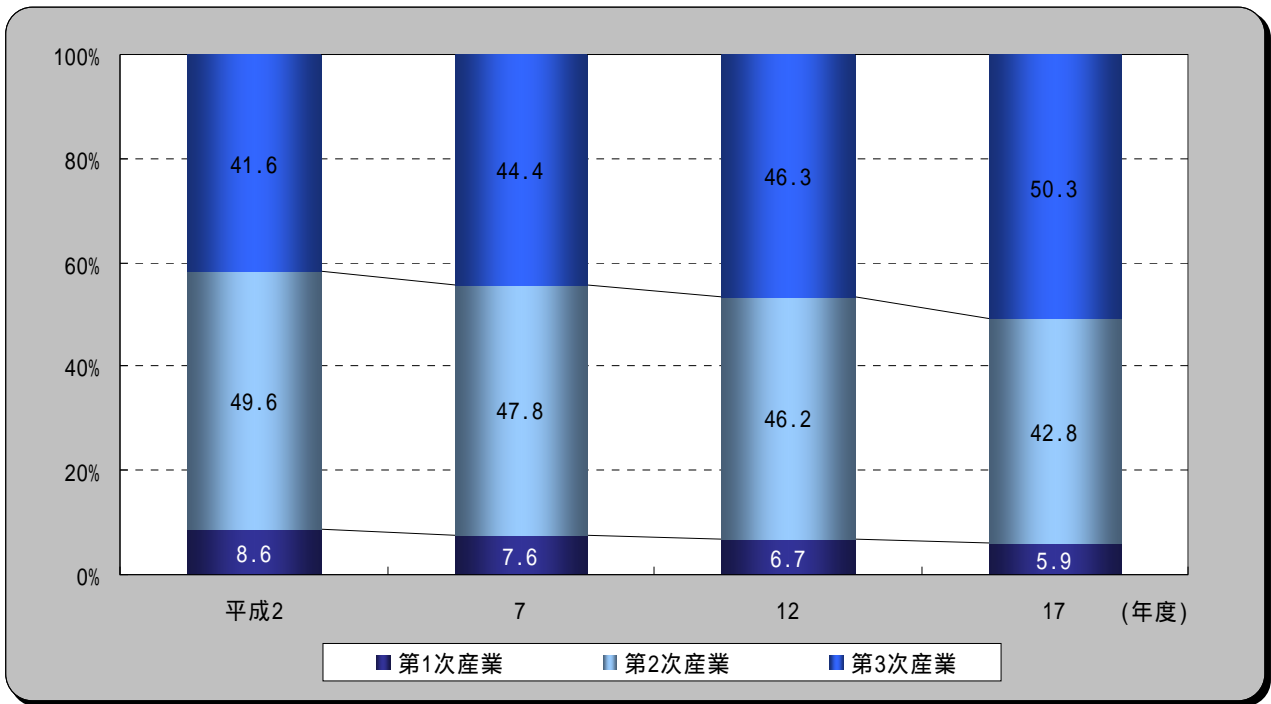
2-3 産業の動向

産業別就業人口割合の推移を図 2-2-5 に示す。

本市は農業産出額が県内屈指で、農・水産物として温室メロンや茶、白ねぎ、海老芋、中国野菜、シラスなどが有名である。しかし、第 1 次産業の就業人口割合は減少している。

工業は、地場産業である繊維産業に加え、金属、自動車、楽器、光技術産業などが盛んであるが、第 2 次産業の就業人口割合も減少している。

一方、商業の中心を担う JR 磐田駅周辺は、居住人口の減少、高齢化、空き店舗の増加等の問題を抱え、再開発ビルの建設など商店街の活性化を進めているところである。それでも、第 3 次産業の就業人口割合は増加している。



注) 各年 10 月 1 日現在
出典) 「国勢調査」

図 2-2-5 産業別就業人口割合の推移

2-4 土地利用状況

固定資産税評価総地積(民有地)の割合を図 2-2-6 に示す。宅地が約 30% で最も多いが、田畑も全体の約 4 分の 1 ずつで比較的多くを占めている。

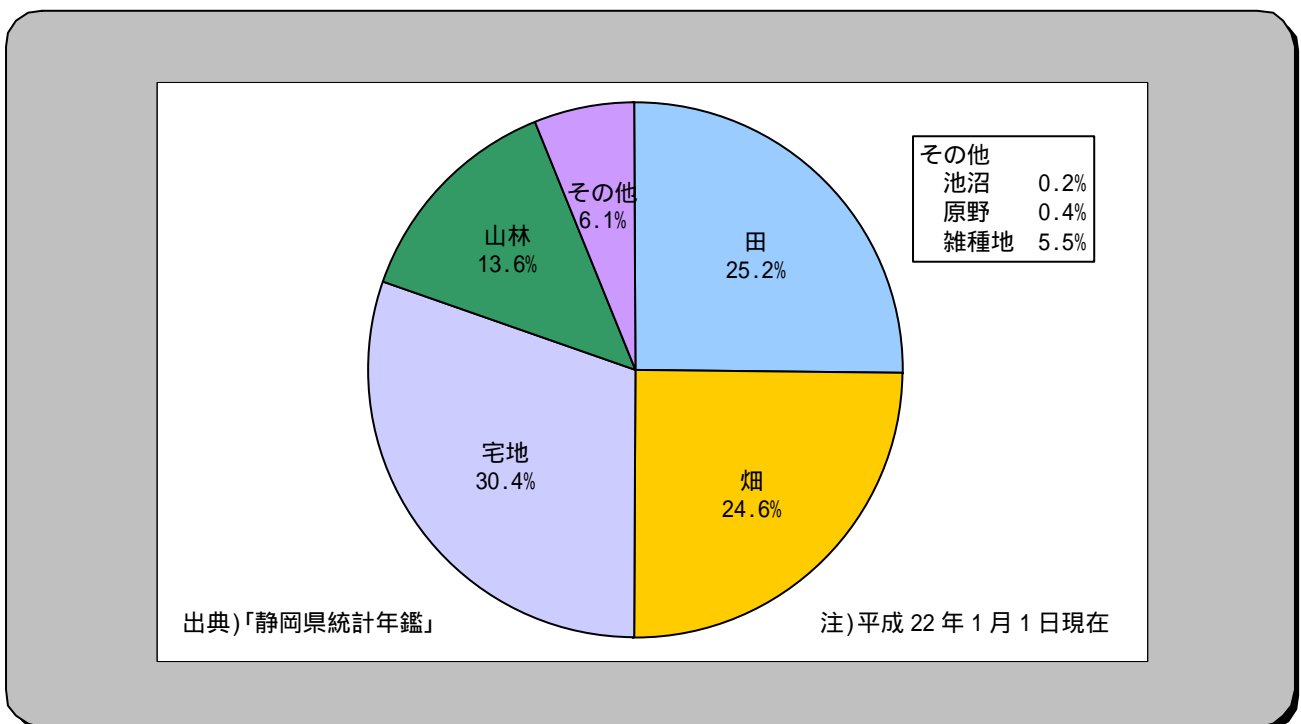


図 2-2-6 固定資産税評価総地積(民有地)の割合

2-5 総合計画の概要

本市の総合計画は、市町村合併後の平成18年度に策定された。総合計画は、市の将来像や目標を定め、その実現のための取組を示した中、長期的な計画である。計画期間は平成19年度から28年度までで、基本構想、基本計画、実施計画で構成されている。(図2-2-7参照)

基本構想では、本市の将来像とそれを実現するための施策の大綱を示している。施策体系を図2-2-8に示す。一般廃棄物処理に関する事項は、基本目標「環境にやさしいまちづくり」の中の基本施策「循環型社会の推進」及び「上下水道の整備」に位置付けられる。前期基本計画におけるこれら基本施策の内容については資料1に掲載する。

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
基本構想	10年間										本市の行政運営の基本指針となるもの。本市の将来像とそれを実現するための施策の大綱を示す。	
基本計画	前期計画(5年間)					後期計画(5年間)					基本構想に掲げる将来像を実現するための根幹的な施策とその内容を示す。社会・経済環境の変化などに的確に対応できるよう、計画期間を前期と後期と各5年に区分。	
実施計画	3年間		3年間		3年間							基本計画に示された施策の実施内容を具体化し、毎年度の予算編成の指針とする。計画期間は3年とし、毎年度ローリング方式で見直す。

図2-2-7 総合計画の構成

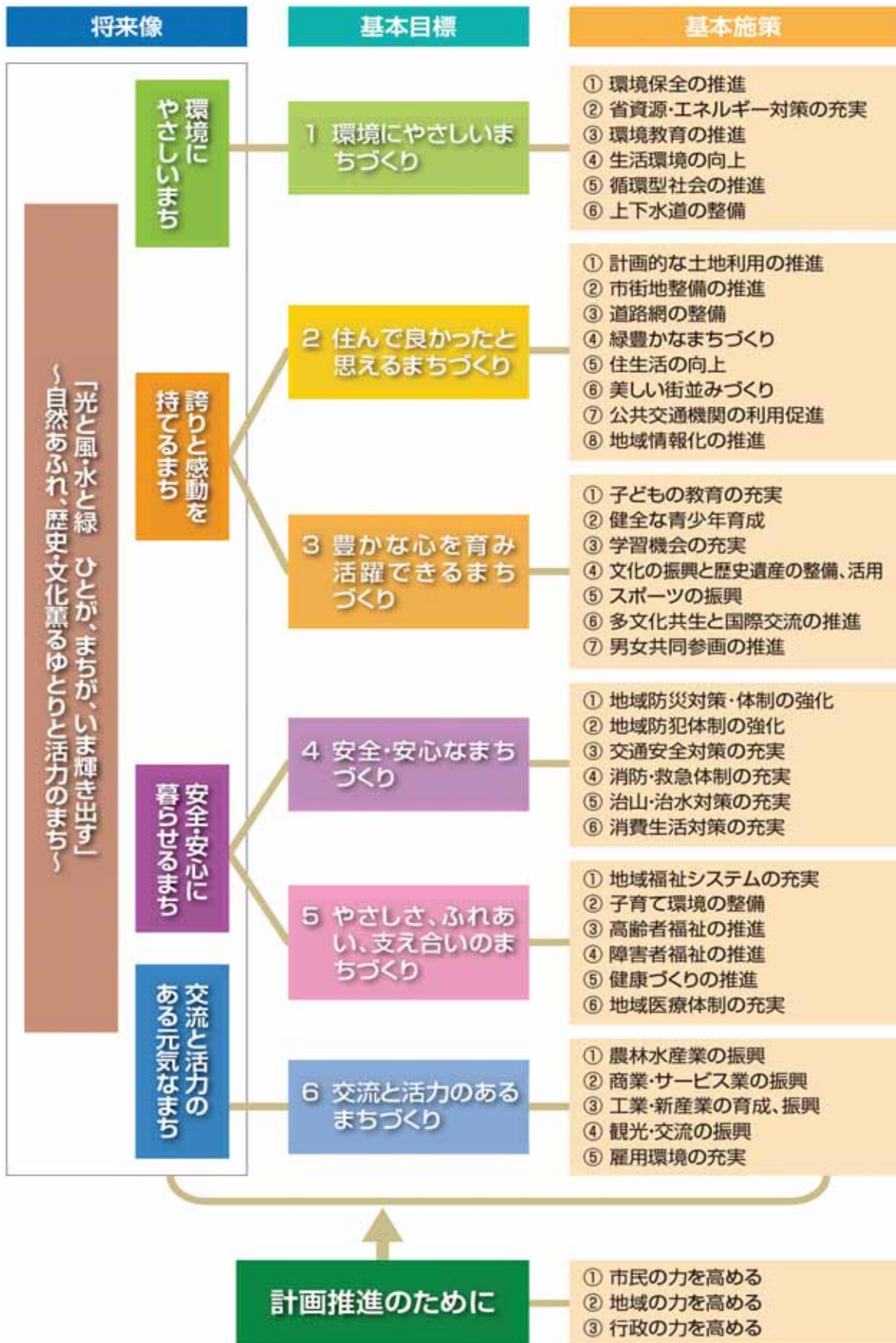


図 2-2-8 総合計画の施策体系

2-6 環境基本計画の概要

環境基本計画は、環境基本条例に基づく計画であると同時に「磐田市総合計画」を環境面から補完する環境の総合計画という2つの側面を持つ。自然の恵みが豊かで、環境への負荷が少ない持続可能な地域づくりを行うため、環境施策の総合的、計画的推進の基本的な考え方及び施策の方向性を環境基本計画にまとめている。

環境基本計画は平成19年度に策定され、平成20年度から29年度の10年間を計画期間としている。基本的事項、目標、取り組みの方向、推進体制及び進行管理を定める「計画編」と、重点プロジェクトを含む市民、事業者及び市の主体別取り組み、地域別環境づくりの方向並びに開発事業別環境配慮指針を定める「環境配慮指針編」、「資料編」の3部で構成されている。環境基本計画の構成を図2-2-9に示す。

本市が目指していく望ましい環境像を「ともに学び ともに創る 水と緑の彩るまち いわた」とし、これを実現するために6つの環境目標を柱として立て、それぞれに取り組みの方向を示している。計画の体系を図2-2-10に示す。環境目標のうち「循環型社会の実現」にごみ処理に関する取り組みが示され、「健康の保護及び生活環境の保全」に生活排水処理に関する取り組みが示されている。ごみ処理及び生活排水処理に関する取り組み項目、取り組み内容、関連する重点プロジェクトについては資料1に掲載する。

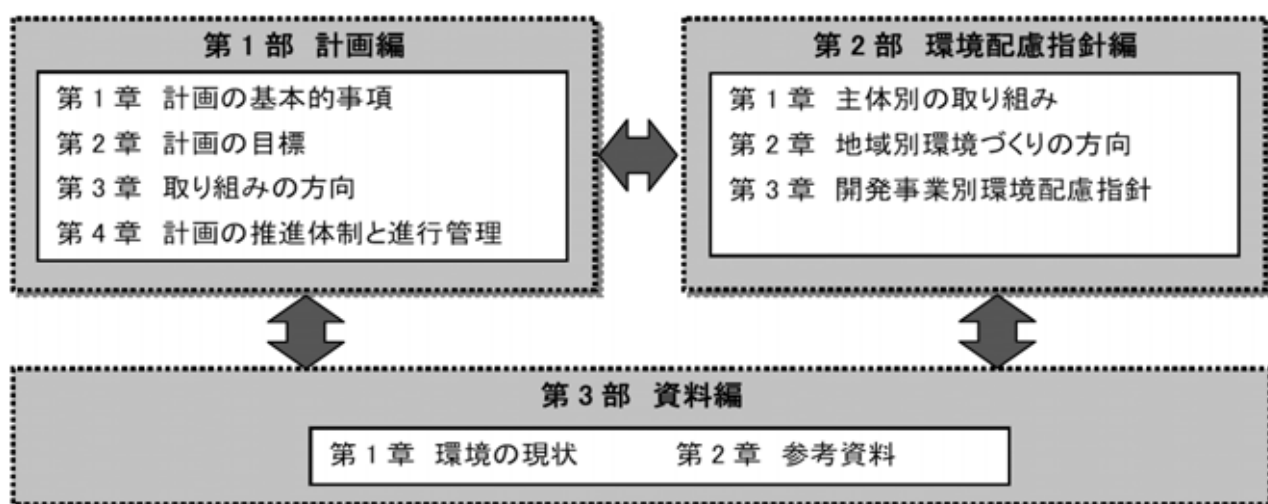


図2-2-9 環境基本計画の構成



図 2-2-10 計画の体系

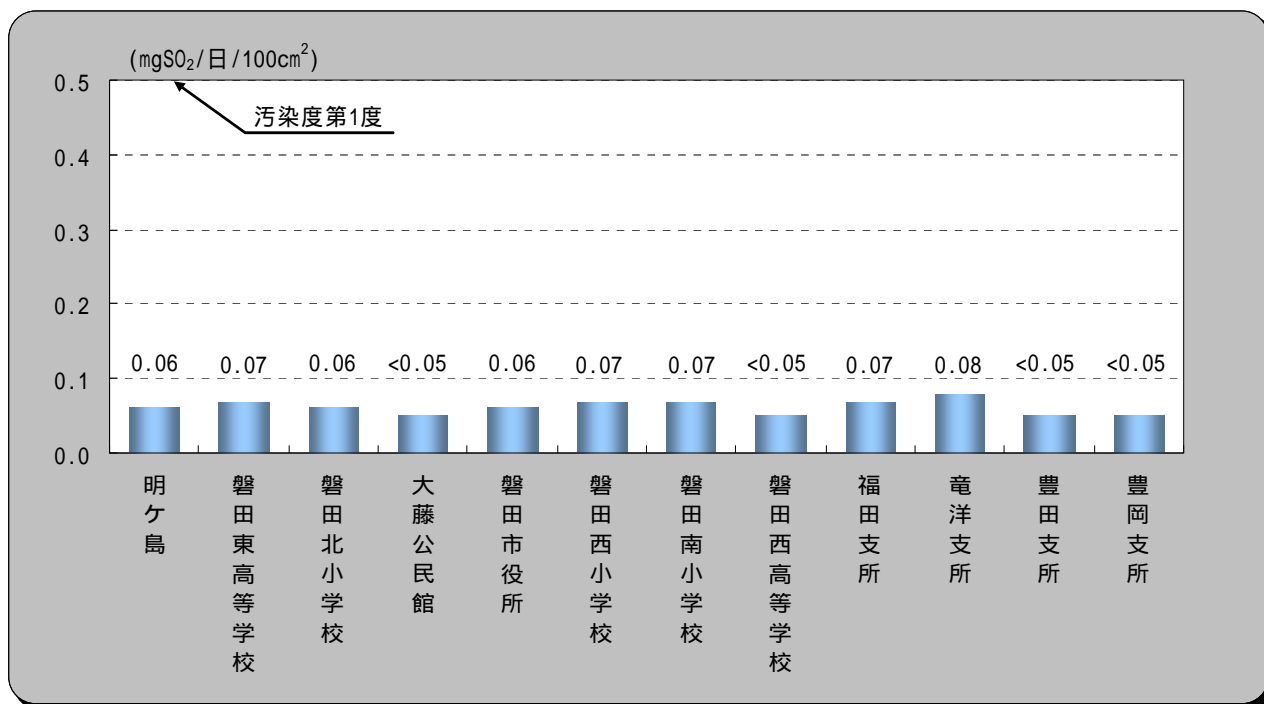
3. 生活環境の状況

3-1 大気質の状況

本市では、昭和46年7月から簡易測定法による硫黄酸化物*及び窒素酸化物*の調査を行っている。硫黄酸化物については、当初、旧磐田市内で10箇所、平成17年市町村合併後は調査地点の変更を行い現在12箇所にて年4回調査している。窒素酸化物については、市内の主要幹線沿線5地点と対象点1地点で年4回調査している。平成21年度の硫黄酸化物の調査結果を図2-3-1に、窒素酸化物の調査結果を図2-3-2に示す。

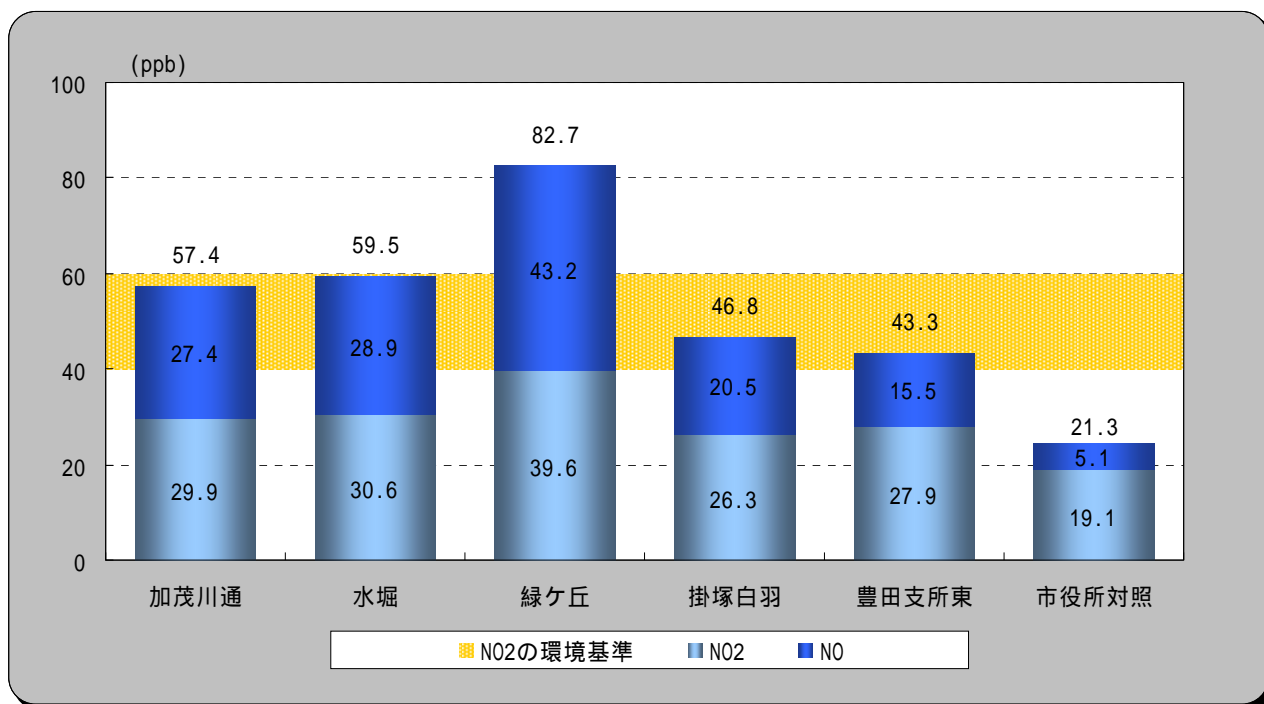
硫黄酸化物の調査結果は良好で、最大値でも汚染度第1度に達していない。

窒素酸化物の調査結果は、対照点である市役所のデータと比較すると、2~4倍と高いが、二酸化窒素濃度の環境基準(40~60ppb)は満たしており、特に問題はない。



注)年最大

図2-3-1 平成21年度の硫黄酸化物の調査結果



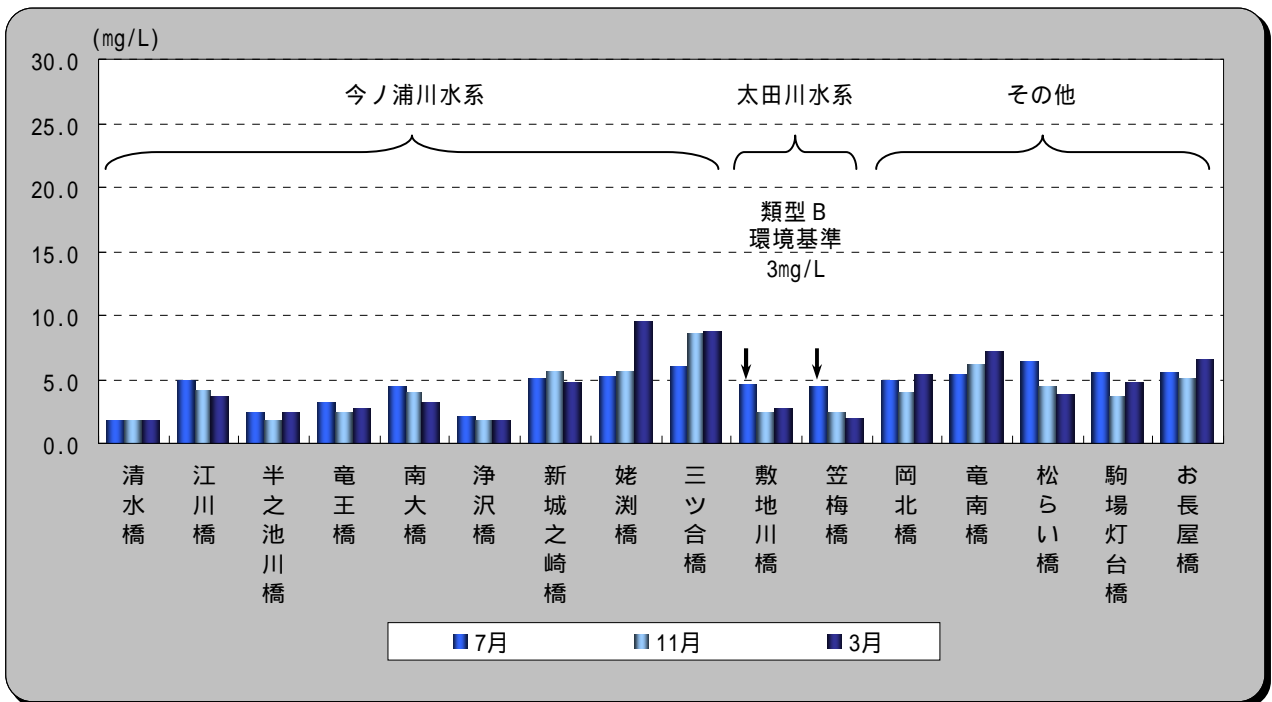
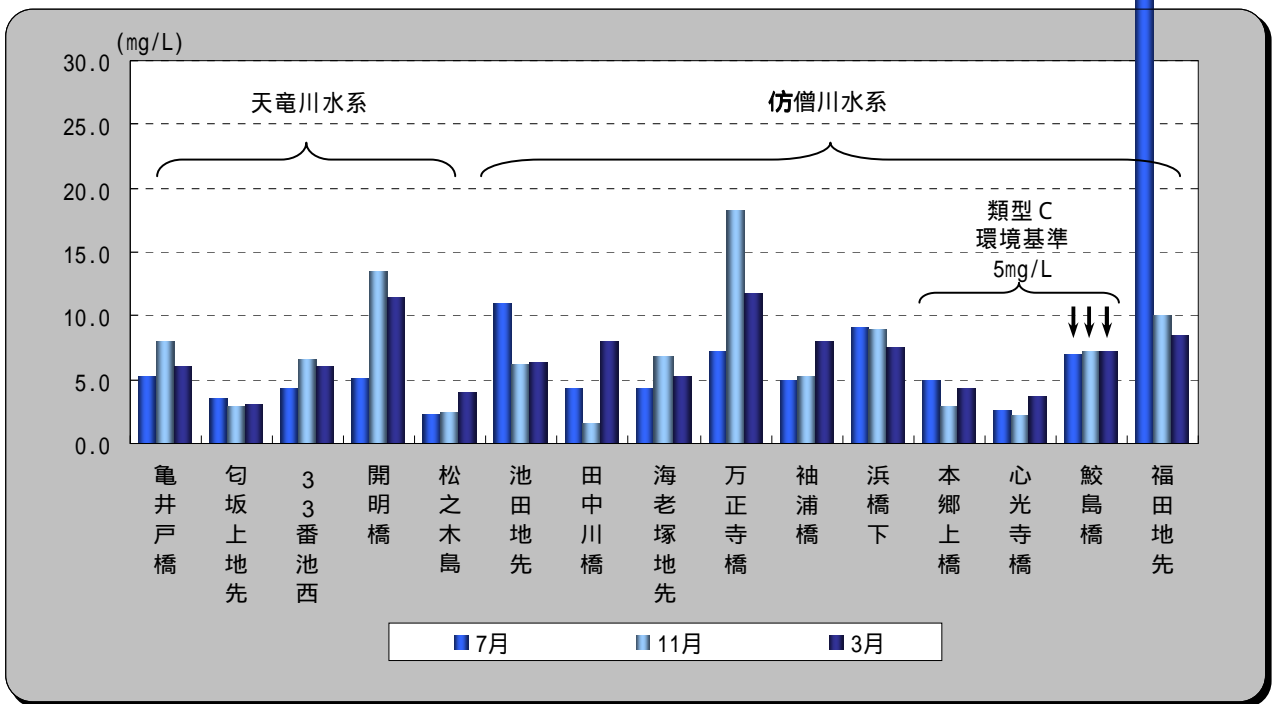
注)年平均

図 2-3-2 平成 21 年度の窒素酸化物の調査結果

3-2 水質の状況

市内の河川状況の把握のため、主要 11 地点については隔月、その他 20 地点については年 3 回水質等の分析を実施している。

水質汚濁の指標となる BOD* の平成 21 年度の調査結果を図 2-3-3 に示す。環境基準が設定されている仿僧川(類型 C:基準値 5mg/L)及び敷地川(類型 B:基準値 3mg/L)において、環境基準を超過している時が見られる。他の調査地点に環境基準は設定されていないが、天竜川水系及び仿僧川水系の調査結果は比較的高い値が出現している。



注 1) 年平均
 2) ...基準超過

図 2-3-3 平成 21 年度の BOD の調査結果